

他の支援制度には見られない柔軟性が魅力

今後は事業評価に加え、広報面での工夫が必要に

(財)日本国際協力システム(JICS)のNGO支援事業では、途上国でさまざまな援助活動を実施する日本の国際協力NGOを対象に、プロジェクトに必要な資機材の購入費や輸送費、団体運営費(人件費を含む)などを支援している。実際に助成を受けた団体は、この支援制度をどう評価しているのか。現地で展開されているプロジェクトに、どのようなインパクトを及ぼしているのか。また、NGOからみて活用しやすい制度なのか…。支援事業の対象となったNGO2団体の関係者とJICSの担当者を変え、話し合った。

8割の団体がJICSの助成を評価

川上 ご承知のとおり、JICSでは1999年度から設立10周年の記念事業としてNGO支援事業を実施しており、これまで51団体・71案件に対し助成を行ってまいりました。昨2005年度には、事業開始から丸6年が経過したということもあり、本事業のこれまでの成果と改善すべき点について把握するために、この支援事業の審査員を務める学識経験者とともに現地視察を行ったり、支援を行った団体に初めてアンケート調査を実施し、支援制度に対する意識や意見などを探りました。アンケートを集計してみると、概ね8割方の団体がJICSの支援制度に満足しているという結果が出ており、ひとまずほっとしているところです。

今回の座談会では、現地での活動に及ぼしたJICS支援事業の効果やインパクト、支援制度への意見など、アンケートでは見えてこない本音のお話をお聞かせいただければと思います。まず、海外での活動状況についてご説明ください。

近田 私たちの団体は、この4月に神奈川県からNPO法人の認証を受け、新たに「地球市民ACTかながわ」(TPAK)としてスタートをきったところです。1993年以来、活動は主に山岳少数民族

や僻地農村部の貧しい子どもたちを対象とした栄養改善、就学支援などに力を注いでおり、現

在はタイ、ミャンマー、さらにインドの3カ国で、こうした子どもたちが元気に学校に通うことが出来るよう、さまざまな活動に取り組んでいます。なぜ「山岳少数民族」にこだわるのか。やはり彼らは社会的弱者であり、絶対的貧困層であり、そして差別される側にあるからです。私たちの支援活動は、そうした少数民族の子どもたちが将来に夢を持ち、自立できるよう応援することであり、彼らが大人になった時、彼ら自身がより良い社会を作る“原動力”になれるよう力を付けることなのです。

川上 その端緒になったのがタイ北部、メーター村での協力事業ですね。

近田 メーター村では遠隔地から通う生徒のための寮の建設、学校農園や養豚、菜園を中心としたランチ・プロジェクトの運営、さらに文具、図書、運動用具などの支援活動を実施してきました。

その後、「虹の架け橋計画」として隣国ミャンマー・シャン州の少数民族に対し、2001年から同じようなサポートを展開しているわけですが、ミャンマーでの学校寮運営を目的に情報交換や運営調整の一

座談会出席者

特定非営利活動法人 地球市民ACTかながわ/TPAK (旧・地球市民の会かながわ)	代表	近田 真知子 氏
特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会 東ティモール事業担当		小泉 香織 氏
(財)日本国際協力システム 業務部プログラムマネージャー		川上 宣彦 氏

つの拠点として、タイのチェンマイにオフィスを設置、その際、必要な資機材の購入費やプロジェクト運営費などにつき、JICSの助成を受けたわけです。

川上 シェアの方では、東ティモールのエルメラ県で「保健教育促進プロジェクト」を展開されている。

小泉 シェアは、1999年10月に準緊急支援として独立(主権回復)前の混乱期にある東ティモールに入りました。現在のプロジェクトには2002年4月から取り組んでいます。

このプロジェクトの目的とするところは、看護師や助産師などの保健スタッフ、小学校教師、村長や教会のリーダーなどに対してトレーニングを行い、保健教育者として活躍できる人材を育成していくことです。彼らの活動現場を実地に訪問し、何か問題があれば一緒に考え、解決していくという取り組みを地道に続けているところです。

一つの「南南協力」の原動力に

川上 JICSのNGO支援事業が皆さんの海外活動に、どうインパクトを与え

ているのか。活用の面も含め、忌憚のないご意見をお聞かせください。

近田 JICSの支援、助成をいただいたおかげで、私たちの会はものすごく変わったんです。この助成によって「プロジェクトの連携による効果」を生み出し、活動の幅、手段が大きく前進したと思います。この連携効果は「南南協力」に通じるところが多く、このような考え方は、2004年度に初めてJICSの支援事業に申請した時は思いもつかなかったというのが実情です。

私たちTPAKがタイのメーター村で積み上げてきた10年以上にわたるノウハウを、今度はお隣のミャンマーに持ち込み、役立てようということで、その情報交換、運営調整の拠点としてチェンマイにオフィスの設置を計画、そこで使うコンピューターやプリンターといった機器に加え、日本の事務局で使う最新のコンピューターなど、私たち単独ではとても購入できないような機材をJICSの助成で整備することができたんです。これでチェンマイ事務所と密接に連絡がとれるようになった。この意味は実に大きかったと思います。

川上 チェンマイの事務所は、具体的にどんな機能を担っているのですか

近田 日本語に堪能なタイ人の女性スタッフを契約ベースで配置しており、メーター村の中学を卒業し、チェンマイの高校や専門学校に通う村の子弟らの下宿の手配、家賃の支払いといったことから、子どもたちからの相談事や悩みにも対応しています。また、国際交流基金から多くの本を寄贈していただいており、ミニ図書館を開設、ちょうど地域の“日本文化センター”的な位置づけを担っています。もちろん、私たちの活動にとっては日本との連絡調整に加え、タイとミャンマーをつなぐ運営調整機能を十二分に果たしており、両国の交流を一段と活性化させる拠点になっています。

2005年度についてもJICSの助成を申請させていただきましたが、今年度は申請書にしっかりと「南南協力」という



川上宣彦氏



近田真知子氏



小泉香織氏

言葉を入れさせていただきました。国境を超えた人々の絆の強まりなど、南南協力で生れてくるものは本当に大きい。それに伴い、私たちの活動も画期的に進歩したと思っています。

使い勝手の良い助成制度

小泉 シェアが活動を行っている東ティモールのエルメラ県は山岳地帯で、事務所を置いている県庁所在地のグレノでも標高が600~700mほどあります。このため、移動も簡単には行かず、保健教育者へのフォローアップ活動では車でデコボコの道をそれこそ片道3時間もかけて訪問しなければならぬ場合もあります。車両も酷使せざるを得ないため、故障が多く、昨年从今年にかけての雨期の間には修理代がかさんだうえ、シェアが使っている3台の車両のうち、1台がほぼ使い物にならない状態になってしまいました。

現地では故障したらその都度、修理を施し、大事に長く使用することに留意していますが、最終的にはしっかりした車を1台購入しなければ、円滑な活動の展開にも支障が出るという状況になり、JICSに助成を申請し、中古車を1台購入することにしました。

川上 JICS以外の助成、支援制度な

ども使われていますか。

小泉 東ティモールで実施しているこの保健教育促進プロジェクトの事業規模は年間約2,000万円くらい。主に国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業パートナー型のスキームで活動させていただいています。このスキームで車両などの資機材を購入した場合は、原則としてプロジェクトが終了した段階で資機材を現地に委譲しない限りはJICAに返すこととなります。したがって、車両など大きなものを購入する場合には、別の資金源を当てる方が私たちにとっては好都合といえるかもしれません。

その点、JICSの助成制度にはそうした縛りがなく、次のプロジェクトにも自由に使っていただけるわけで、とても助かっています。私たちNGOにとっては非常に使い勝手の良い助成制度だと思います。

近田 事務所の運営費について助成申請できる制度は、JICS以外にあまり見当たりませんね。また、コンピューターやプリンターなどの機器に関しても、たとえば支援先の学校などが使うものについては買っていいが、日本の事務局が使う機器は助成の対象外とする制度が多い。この点、JICSの支援制度は国内の本部で使う機器について

JICSのNGO支援事業とは

(財)日本国際協力システム(JICS)が設立10周年記念事業として1999年度から開始した事業。開発途上国で援助活動を展開している日本のNGOを支援するため、活動に必要な資金を助成している。これまでの支援対象は51団体・71案件。

・助成金額：1案件当たり上限100万円(年7件程度が対象)

・対象費目：プロジェクトに必要な資機材の

購入費・輸送費、プロジェクト運営費、団体運営費、団体本部基盤強化のための費用。

例年、8月から9月にかけて申請受付が行われている。詳細問い合わせは下記まで。

(財)日本国際協力システム 業務部

NGO支援係

TEL:03-5369-7480

E-mail:shienngo@jics.or.jp

も認めており、本当に助かっています。とくに嬉しかったのがプリンターの購入。プリンターはどうしても消耗品ということで、私たちににとっては機能の限られた安いものしか買えなかったんです。ところが今回、JICSの助成によりA3用紙も使えるプリンターを買うことが出来た。ポスターや会報も刷れるということで、会の方では大変重宝しているんです。たかがA3用紙といわれるかもしれませんが、NGOの活動を活性化させる素材は本当に身近なところにあると思っています。

もっと支援制度の宣伝を

川上 JICSの支援制度に何か足りないものはありますか。感想なりご要望がありましたら...

小泉 どこにどんな助成制度があるのか、私たちはそれこそアンテナを張り巡らして情報を集め、内容を常に把握しておくように努めています。もともとシェアは箱物を作るような支援活動は行っておらず、活動費の大半は活動そのものに投入するようにしています。その分、物を買やすい助成制度については、私自身、実はよく把握していなかった。JICSはもう少し、この支援事業の宣伝に力を入れてもいいのではないのでしょうか。

近田 実は、私たちも会員さんに教えてもらうまでJICSの制度については知らなかったんです。それまで当会も相当きめ細かく網を張って情報収集に励んでいたんですが、その網に引っかかってこなかった。かなり意外な気がしたんですが、やはり広報面にももう少し工夫が必要だと思います。

要望点としては、人的ネットワークの拠点といった視点での支援対象をさらに考慮していただくと助かります。つまり、私たちが進めてきた人と人を結びつけるような拠点があれば、そこからアイデアやノウハウがどんどん外に発信されていくわけです。そのソフトを生み出すような所を対象とした

支援制度がなかなか見つからない。もう一点は、JICSのご担当者が手続きなどに不慣れな私たちに対し、懇切丁寧に対応していただいたことで、一緒に助成事業を作り上げていただいたと思

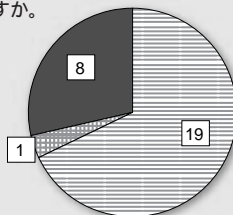
っています。

川上 幸いなことに活動報告・意見交換会もご評判をいただいております。今年は皆様のご参加もお待ちしています。

JICSのNGO支援事業に高い評価 ~JICSアンケート調査から

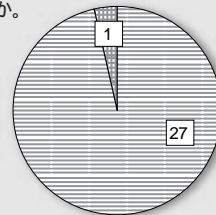
JICSはこのほど、日本の国際協力NGO46団体を対象に、支援・助成事業などに関するアンケート調査を実施した。有効回答団体数は28団体。団体回答率は60.9%。アンケート調査分野は(1)NGO団体について、(2)支援対象となったプロジェクトについて、(3)JICS・NGO支援事業について、の3パート構成。ここでは主な回答結果を紹介する。

Q1 JICSに助成申請した時点と比べ、貴団体の実施プロジェクト数は増えていますか。



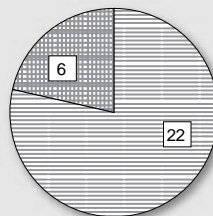
■ 増えている ■ 減っている ■ どちらでもない

Q3 プロジェクト目的の達成に対するJICSの支援金援助は有効なものでしたか。



■ 有効だった ■ どちらでもない

Q2 近年(最近の3カ年程度)、貴団体のプロジェクトに対して他の組織から支援を受けたことがありますか。

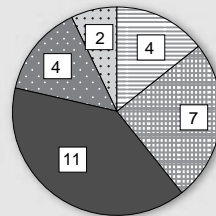


■ 受けたことがある ■ 受けたことがない

「受けたことがある」のうち、回答のあった主な支援スキームと団体数は以下のとおり。

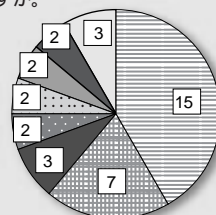
- ・ 外務省/NGO補助金・草の根無償、他 11団体
- ・ 日本郵政公社/国際ボランティア貯金 10団体
- ・ JICA/草の根技術協力、他 7団体

Q4 JICS・NGO支援事業の支援金額(上限100万円)について、どのような印象を持たれましたか。



■ 十分 ■ 概ね十分 ■ 普通 ■ やや少ない ■ 少ない

Q5 JICS・NGO支援事業に関して、他の団体と比較して評価できる点はどこですか。



■ 支援対象(間接費・人件費・運営費等)範囲が広い
 ■ 丁寧な対応 ■ 中小規模のNGOを対象
 ■ 意見交換会・報告会がある ■ 審査方法の明快さ・申請しやすさ
 ■ 申請後の融通が効く ■ NGO支援内容に関する理解がある
 □ その他